

関東民放クラブだより

全国の民放クラブ会員の皆様

新春を寿ぎ併せて民放クラブ30周年をお慶び申し上げます。

さて、今回は関東の各支部、新潟、静岡、長野3県の広報活動を報告して頂きました。

新潟の広報誌『朱鷺』

田代 和孝(BSN)

記念の第1号は、平成17年3月、新潟支部創立14年目に生まれました。西年に生まれたので、広報紙の名前も朱鷺でスナナリ決定。広報担当委員は、各局1人以上で構成され、発行は年2回。



新潟会報誌

当時の石井 祐司支部長は、『朱鷺』創刊号の挨拶で「新事業の一つである

ある待望の新潟支部会報が、会員相互の新しい広場としてスタートの運びとなりました。会員同士なかなか一堂に会する機会がありません。会報を通して皆さんのご協力で、楽しいコミュニケーション広場を作り上げていきたいと思えます。

ジャンルを問わず何でもありの、賑やかなものにしませんか。今年度は西年、飛翔の一年にしたい。編集方針はこの言葉に尽きます。ページ数は決まっております。最大で8ページ、原稿の量で4〜6ページとなっております。

昨年、新潟地震から50年、中越地震から10年の年でした。各局とも地震から学ぶもの、地震を考

えるなど、様々な切り口から地震に取り組みました。広報紙の『朱鷺』も、各局の地震関連番組を紹介しました。

これからの『朱鷺』は、いま現場で働いている人の声、そして会員の思いのシーンなどで、会員と現場との交流の場が出来ないか目下思案中です。

会報『民放しずおか』

石田 智彦(SBS)

新年号は1月2日、全会員はじめ、関係各TV局、関東民放クラブおよび各支部宛てに届けられました。最初の発行からもう77号になります。

もともと年6回、2カ月ごとの

発行でしたが、経費節約のため、昨年6月号から年4回、3カ月ごとの発行に変えました。また、在静各局の番組広告を半段ずつ掲載するようにになり、各局から広告料をいただき、経費にあてるためのものでした。



静岡広報誌

サイズはB5判、8ページ建て。小さな会報誌ですが、誌面を埋めるのには、

毎号、ひと苦労しています。たとえば表紙。以前は独特な視点の写真、風格のある文章で飾っていましたが、担当者がリタイアしたため今は趣を変え、クラブ活動のうちから話題になりそうなものを文章にし、大きな写真つきで、なんとか形を整えています。

2頁以下はツアーやイベントなどの活動報告や随筆、会員消息を掲載しています。ここで問題なのは執筆者の固定化です。そこで、多くの会員からの随筆や近況報告を寄せるよう、働きかけています。

会報『やっほ〜』と呼べば

「やっほ〜」

長野支部の会報を思うと、多くの先輩の皆さんの熱意が甦ります。会報発行を決めた頃の幹事会ではタイトルに議論百出でした。

その中で光ったのが木村雅英(SBC)幹事の「やっほ〜」と呼ん



長野会報誌

編集長には窪田晃(SBC)幹事が就任。自らカメラを持っては同好会に参加し、

B5判『やっほ〜』第1号が発行されたのは、平成13年5月のことでした。爾来『やっほ〜』は、長野支部の同好会の模様や会員のエッセー、近況などを載せ、会員の広場となりました。

尾賀芳照支部長(SBC)の呼びかけで同好会が益々活性化し、会報の中身も次第に濃くなっています。頁数は4〜6。発行は年4〜5回のペースです。昨年12月の発行で『やっほ〜』は第53号となりました。

編集部 神波 潔(SBC)

堤 保徳(NBS)